

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12020184

政策目標	3 のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 極めて専門的知識を要し、資料整理及び復元経費などを把握する必要があるため、専門職員を交えながら分析・調査を進める必要がある。
基本施策	14 芸術・文化の振興	事業優先度	C	
単位施策	1 歴史文化の保存と継承	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	郷土資料保存・展示調査事業	見直し年度		
事業期間	平成26年度～平成29年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	郷土資料250点の分析・調査		#N/A	
事業目標	郷土資料の区分整理・データ集計	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	無	
住民協働		関係個別計画名	無	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	郷土資料の調査 ・専門員の分析 ・保存資料の調査 ・保存資料の区分整理 ・保存資料のデータ集計作成 ・方向性の検討		郷土資料の調査 ・専門員の分析 ・保存資料の調査	郷土資料の調査 ・保存資料の調査	郷土資料の調査 ・専門員の分析・調査 ・保存資料の区分整理 ・保存資料のデータ集計作成	郷土資料の調査 ・専門員の分析・調査 ・保存資料の区分整理 ・保存資料のデータ集計完了
	事業費(千円)	100	0	100	0	0
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	100		100	0	0	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	357	0	0	0	357
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	357		0	0	357	
特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等) 保存資料の調査	(実施内容等) 保存資料の調査	(実施内容等) 郷土資料の調査 ・専門員の分析・調査 ・保存資料の区分整理 ・保存資料のデータ集計作成	(実施内容等)
【評価・実績】		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 C-内容の見直し・変更	※事務事業評価結果 C-内容の見直し・変更	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果
前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値		保存資料の分析・調査	保存資料の分析・調査	保存資料の区分整理・資料集計	保存資料の整理・資料集計・方向性の検討
年度達成率	#DIV/0!		0%	0%	#DIV/0!	#DIV/0!
第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	0%	0%	0%	357%	357%
備考欄						

事業名	郷土資料保存・展示調査事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	澤田 朋 朗
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係長	齋藤 康 志

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	郷土資料	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	郷土資料の調査		
【抱える課題やニーズは】	郷土資料の把握と資料整理。		指標(指標計算式/解説)	目 標 値 及 び 実 績 値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	資料の整理・分類の実施。		① 専門員の分析・調査 保存資料の区分整理 保存資料のデータ集計作成	目 標 年 度	平成28 年度
				目 標 値	1 式
実 績 値	1 式				
達 成 度	100.0 %				
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果＝目的	町民に対する展示による郷土資料の提供、学校教育での活用。	②	目 標 年 度	平成28 年度	
			目 標 値		
			実 績 値		
達 成 度	#DIV/0! %				
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	郷土資料の調査	専門員による調査・分類・データ集計			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	貴重な郷土資料を保存・展示することにより、町民及び教育現場での活用が広がることから、教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要 /課題あり	<input type="checkbox"/>	全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	専門員による郷土資料の整理・分類が行われ、今後の展示・活用のため適切な調査を行うことができた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効 /課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	郷土資料は町の貴重な財産であり、教育的な観点からも重要であることから、資料の整理・分類は近隣在住の専門家に依頼し、コスト削減を図ったことから効率性は保たれていると判断する。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的 /課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	今後予定している郷土資料の利活用のための調査であり、展示の際には全町民が鑑賞対象となることから、公平性が図られていると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平 /公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
専門員の適切な調査により、整理・分類を行うことができた。		



継続/現状維持		
郷土資料の整理・分類については完了したが、今後の展示・活用方法についての調査・研究が必要である。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
  - 終了 ○休止 ○廃止